

令和3年度第5回
札幌市環境影響評価審議会

議 事 録

日 時：令和3年11月15日（月）午後3時開会
場 所：Web会議

札幌市環境局

1 出席者

(1) 第11次札幌市環境影響評価審議会委員

- ◎近藤 哲也 北海道大学名誉教授、(公財)札幌市公園緑化協会 理事長
○坪田 敏男 北海道大学大学院獣医学研究院 教授
秋山 雅行 (地独)北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
研究推進室 主幹
石塚 真由美 北海道大学大学院獣医学研究院 教授
伊藤 真由美 北海道大学大学院工学研究院 准教授
上田 裕文 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授
奥本 素子 北海道大学高等教育推進機構 准教授
小篠 隆生 北海道大学大学院工学研究院 准教授
鈴木 光 北海学園大学法学部 教授
高橋 英明 (地独)北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
環境保全部 専門研究員
吉田 剛司 (特非)EnVision環境保全事務所 研究員
渡部 要一 北海道大学大学院工学研究院 教授
計 12名 ◎:会長、○:副会長

(2) 事務局

- 札幌市環境局環境都市推進部環境管理担当部長 柴田 千賀子
札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課長 濱田 敏裕
札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課環境共生係長 石川 郭遂
札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課環境共生係 成田 浩之

(3) 事業者

- ・(仮称)札幌駅南口北4西3地区第一種市街地再開発事業
(都市計画決定権者)札幌市まちづくり政策局政策企画部都心まちづくり推進室
札幌駅交流拠点推進担当部長 高橋 秀士
プロジェクト担当係長 深尾 昌弘
(事業者から委託を受けた者)株式会社日本設計 3名

2 報道機関

- 株式会社北海道建設新聞社
株式会社北海道新聞社

3 傍聴者

8名

1. 開 会

○事務局（濱田環境共生担当課長） それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和3年度第5回札幌市環境影響評価審議会を開催いたします。

本日は、審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

環境共生担当課長の濱田です。

今回も、前回までと同様に、オンライン形式で開催させていただいております。

また、札幌市情報公開条例の規定に基づきまして、本会議は傍聴希望者の方々向けにYouTubeにて限定公開という形でライブ配信しておりますことをご報告いたします。

なお、議事録作成のため、本会議を録画しておりますので、あらかじめご了承くださいければと思います。

それでは、開会に当たりまして、環境管理担当部長の柴田よりご挨拶を申し上げます。

○柴田環境管理担当部長 環境管理担当部長の柴田でございます。

本日もご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

さて、本日の会議でございますけれども、前回、前々回に引き続きまして、札幌駅南口北4西3地区での市街地再開発事業の準備書の審査についてですが、答申案についてご審議をお願いしたいと存じます。

これまで、皆様には活発なご審議をいただいておりますので、今回も専門的な見地からのご意見を頂戴したく、お願いいたします。

簡単ではございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（濱田環境共生担当課長） 続きまして、本日の資料について確認させていただきます。

事前にメールでも送付させていただいているところですが、まず、次第、委員名簿、事業者関係出席者名簿となっております。そのほか、参考資料として、札幌駅前再開発事業における環境影響評価手続状況、（仮称）札幌駅南口北4西3地区第一種市街地再開発事業に関する資料として、資料1-1、資料2を配布しております。

今回の資料は、以上となります。

本日は、委員15名の方々のうち12名の方に出席をいただいておりますことから、札幌市環境影響評価審議会規則第4条第3項の規定により、この会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、これからの進行は近藤会長をお願いしたいと存じます。

近藤会長、よろしくお願ひいたします。

2. 議 事

○近藤会長 本日の終了予定時刻は16時ですので、ご協力いただければありがたいと思

います。

それでは、議事に入らせていただきます。

今日は、札幌駅南口北4西3地区第一種市街地再開発事業環境影響評価準備書の答申についての審議でございます。

前回に引き続きまして、事業者の方々に当審議会への出席をお願いしております。

それでは、今回は、事業者の方から、前回までの審議について補足と回答がございますので、資料1-1に沿って説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○事業者（日本設計） よろしくお願ひいたします。

画面共有をさせていただきます。

それでは、これまでの審議会にてご指摘いただいた内容について、日本設計から補足説明をさせていただきます。

お手元の資料1-1に基づいて、併せて画面共有をさせていただきながら説明いたします。

初めに、生態系についてでございます。

緑化によりムクドリだらけになるなど、開発による負の影響についても検討いただきたい旨、吉田委員よりご指摘をいただいております。

今後の緑化協議の中でご指摘いただいた部分を含めて検討させていただくと回答させていただきましたが、評価書にて、現時点で検討できる範囲について、生態系への影響について記載するように対応する考えであります。

画面にお示しさせていただきますけれども、こちらは準備書で提示しておりました緑化計画図でございます。

こちらでもわかりますように、事業区域内に大規模な緑化はないこと、鳥類が好む実なる樹種は極力避けることなどを踏まえて、事業区域内の緑化による周辺の生態系への影響は小さいと考えているところでございます。

このような定性的な予測結果になると考えておりますけれども、次の評価書にそのような検討結果を併せてお示しさせていただくことを考えてございます。そのほか、具体的な樹種につきましては、都市計画決定以降の実施設計の中で、在来種などの採用等を引き続き検討していきたいと考えているところでございます。

このような形で、こちらの予測手順の中に新しく緑化計画を入れさせていただいた上で、評価書に記載させていただくことを考えてございます。

続きまして、景観についてでございます。

今後、景観の上位計画が見直された際、どのように対応していくかということで、小篠委員よりご指摘をいただいております。

同様の回答となりますけれども、今後のガイドラインの見直しにつきましては、可能な範囲で今後対応していくことを考えているところでございます。

アセス手続としましては、次の評価書段階までというところでございますけれども、引

き続き、景観条例等に即した手続としまして、都市計画決定以降に設計段階景観プレ・アドバイスがございまして、その中で、その時点の景観の上位計画に即した内容であることを審議いただけたと考えているところでございます。

また、この設計段階景観プレ・アドバイスにつきましては、その審議内容を公開されるというふうに聞いておりますので、市民の皆さんもその内容をご確認いただける機会があると理解しているところでございます。

この景観の内容に関連した話として、2回目のアセス審議会において、小篠委員より追加でご指摘がございました。これまでの景観に関する協議でどのようなご意見があつて、それに対してどのように反映したかを示していただきたいというお話だったかと思ひます。

資料のページが飛びますけれども、4ページ目をご確認いただければと思ひます。

こちらに、景観に関する手続として、構想段階景観プレ・アドバイスにおける助言、それに対する検討・反映内容を表形式で入れさせていただいております。こちらで分かりますように、大きく①から④までと四つに分けています。

①として、人の賑わい、縦基調の壁面形成といった考えの中層部デザインへの反映、②として、北5条通、札幌駅前通の緑の考え方、③として、サイン計画の考え方、④として、ガレリアのしつらえの考え方というところでございます。

こちらの表の中に、左の助言の内容に対して右側の検討・反映内容というところに回答を入れさせていただいておりますけれども、5ページ目のパース、モンタージュを見ていただくのが分かりやすいかと思ひますので、そちらも併せてご確認いただければと思ひます。

一つ目の中層部の助言につきましては、縦フィンの間隔を狭めた縦基調のさらなる強調というところと、ガラス面を設けることで商業内部のにぎわいの表出を反映しているところでございます。

②の緑の考えへの助言については、ひさしの軒天井を木調にすることでの街路樹の並木と合わせた緑の演出、あとは、敷地内コーナー部の緑化を計画に反映しているところでございます。

③のサインの考え方につきましては、①に関連するところでございますけれども、ガラス面により、広告物やサインなどを計画的に演出するなどの考えでございまして。

④のガレリアですが、基壇部に設けた事業区域を東西方向に結んだ空間になります。

こちらは準備書の断面図になりますけれども、ちょうど真ん中のところと併せて歩行者動線図を見ていただくと分かりやすいと思ひますが、敷地内貫通通路と書かれているところが敷地内を東西につないだ空間でございまして。こちらのガレリアにつきましては、ガラス等透過性のある素材として賑わいの表出、外壁に面することで長大壁面を分節するなどの役割を計画に反映しているところでございまして。

こちらの内容につきましては、今後の評価書の中に記載していく考えでございまして。

続きまして、ページが戻りますけれども、2ページ目です。

同じく景観関連でのご指摘でございまして。

上田委員よりご指摘いただきましたけれども、駅前通につきましては、地上部以外の視点場を検討いただきたいというご意見をいただいております。

審議会でお話がありましたステラプレイス上階から景観の撮影をさせていただきまして、この資料にお示しさせていただいているような形でモンタージュを作成しております。

左側の写真が現況、右側の写真が建設後で向かって左手が計画建築物でございます。

こちらの内容につきましても、今後の評価書の中に記載していく考えでございます。

同じく2ページ目の下段に移りまして、廃棄物等でございます。

近藤会長より、廃棄物の再資源化率についてご質疑をいただいております。

以前の説明と重複するところがございますけれども、原単位については、札幌市の事業系ごみの収集の実績値を基に設定させていただいております。

具体的には、札幌市環境事業公社の事業報告書の中で、ごみの収集量、リサイクル量が公開されておりますので、過去5年間の実績値を基にした、平均値という形で原単位を設定させていただいております。したがって、実績としては、ほかの事例と大きく変わらない考えでございます。

最後に、3ページ目でございます。

奈良委員よりご指摘があった温室効果ガスについてでございます。

本事業において、新しくエネルギーセンターができることで、地域全体の既存エネルギーネットワーク全体にどの程度貢献できるのかが示されるとよいということでご質疑をいただいたところでございます。

補足回答としましては、札幌市全体の現状を把握することは難しく、少し都心部に絞っての検討ということで、こちらの図にありますように、都心強化先導エリアに着目させていただいてご報告をさせていただきます。

また、隣接する北5西1・西2地区につきましては別事業のため、本事業のみの想定というところでののおおむねの確認状況となります。

現在、都心部の床面積と冷熱負荷の原単位から想定した地域に必要なとされる熱需要に対して、現在の熱供給量、こちらは既存のエネルギーセンターの規模を基に確認させていただいておりますけれども、現在の熱供給量としては大体60%程度カバーできているというところで見積もっております。このカバー率につきまして、本事業の実施によってエネルギーセンターが新しくできることで少し向上していくことを考えてございます。

ただ、もともとの熱需要、熱供給量が大きいものですから、本事業による大幅な向上というところはなかなか難しいと考えております。現在想定しているエネルギーセンターの熱源の容量から考えますと、貢献の程度としては平均より大体5%程度上昇するのではないかと見込んでいるところでございます。

こちらの現在の検討状況で、まだいろいろと協議中の部分もございますが、現時点の見込みというところで、今後の評価書の資料編の中に記載させていただきたいと考えており

ます。

以上、資料1-1を用いての簡単なご説明となりましたけれども、今までの第1回、第2回の審議会の中でご質疑いただいたところにつきましての補足説明でございます。

よろしくお願いたします。

○近藤会長 どうもありがとうございました。

私がお伺いしたことにつきましては、十分納得いたしました。

委員の方からご発言はございますか。

小篠委員、お願いします。

○小篠委員 小篠でございます。

説明を受けましたけれども、ちょっと教えていただきたいことがあります。

資料1-1の4ページ目のフローですけれども、今、準備書の段階で、正確に教えていただきたいのですけれども、構想段階の景観プレ・アドバイスが終わって、都市計画に係る企画案に反映したものが準備書、評価書のほうにフィードバックされるということですね。今、その段階にあると考えていいのですか。

○事業者（日本設計） はい。

○小篠委員 その右側の表は、景観プレ・アドバイスの構想段階で話されたことということですね。

○事業者（日本設計） 助言について検討、反映して修正した結果が、現在、準備書の中で示させていただいているパースあるいはモンタージュになっております。

○小篠委員 これは、景観プレ・アドバイスの方々には了解を得ていることなのでしょうか。

○事業者（日本設計） 修正した内容についてというところですか。

○小篠委員 そうです。

○事業者（日本設計） 設計の担当からご回答をお願いします。

○事業者（日本設計） 日本設計の生木と申します。

景観プレ・アドバイスでご指摘いただいた内容については、最終的には、札幌市さんの取りまとめによって、こういった助言内容に対して反映してくださいというご指導をいただきまして、それに対して反映している状況です。現時点では、プレアドの委員の皆様に対してこの内容を説明している状況にはございません。

○小篠委員 そうしたときに、環境影響評価審議会の委員として何が言えるかという話になってくるわけです。私たちは、そういう流れになっているのですよねということしか言うことができないような立ってつけになっているかもしれませんけれども、ちょっと不安だなという感覚を持ちます。

というのは、そのフローがよく分からないのですけれども、景観プレ・アドバイスとのやり取りで熟議を重ねていて、実施設計の方針が明確に出ていくのならばよろしいと思いますし、それが評価書に書かれるということかもしれませんけれども、それをまだやられ

ていない段階でご意見をというふうに言われても、ちょっと苦しいかなという率直な印象があります。進めてくださいという言い方しかできないのも、立てつけの問題でどうかなと思ったりするのですけれども、そういう印象を持っています。

特に、助言内容について検討・反映内容と言っているものが、どういう関係を持って言っているのかがあまりよく分からないのです。この文章と、すごく引いたパースでご説明いただいても、それが本当によろしいことなのかどうかという評価はなかなかしにくいと思っています。

これは事前に配付されているので、読んだり見たりしておりましたが、例えば、①であれば、いわゆる賑わいとか駅広との一体感で人の動きなどが感じられるような表層のデザインにしてくれという考え方があるのだけれども、それに対して、中層階の縦フィンの出寸法の間隔を狭めたことで縦基調を強調したことがどうして中景の方針にミートしているのか、それでいいのかどうかということがちょっと分からないのです。基本設計の意図として、どうしてこれで対応できるのかが分からないし、環境影響評価の委員の方々ほとんど建築の専門家ではありませんから、こんなことを言われても、なぜそうなっているのかということは分からないと思うのです。

もし説明していただけるのならば、評価書にせつかく載せていただけるのならば、その辺を十分に分かりやすく説明していただいたほうが良いと思いました。説明の文量がちょっと足りないのではないかという感じがしますが、どうでしょうか。

今、ここで説明しろというわけではないのですが、評価書に載せるということを伺いましたので、評価書に掲載するのであれば、もうちょっと丁寧な資料の説明が要ると思いました。

これが分からないと思っているのは私だけでしょうか。

○近藤会長 確かに、賑わいと縦基調はどんな関連があるのかと改めて聞かれると、どうなのだろうとは思いますが。

○小篠委員 また、ガレリアというのも皆様方が初めて聞かれる言葉で、それが何を意味しているのかというのはほとんど不明だと思うのです。計画、設計をされている方はガレリアありきでずっと進んでいるので分かっている話だと思うのですけれども、では、ガレリアとはどういうものであって、それがどういうふうに見えなければいけないというところからの話をされないと、審議会委員の方は全く不明だと思います。

○近藤会長 僕も、ガレリアが分かりませんでしたので、後で調べようと思っていました。

小篠委員が言われるように、植物とか動物とかエネルギーとか騒音などの先生が多いので、そういう人たちにも、分かるような表現というか、括弧書きでも説明していただければすごく助かると思いますけれども、事業者の方はどうですか。

○事業者（日本設計） ご意見をありがとうございます。

評価書で記載していく際には、もう少し分かりやすくなりますように、環境局さんと協議をさせていただきながら、丁寧な表現に対応させていただきますので、よろしくお願

いたします。

○小篠委員 あとは、対応したということの結果だけ出されても分かりにくいのです。従前と従後でどうなったのかですね。こういう計画で、景観プレ・アドバイスを受けてこういうふうにしたよという従前と従後の図面というかパースが出てこない、直っているね、こっちのほう改善されているねということ審議会で理解することはできないと思います。それもちょうとやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○事業者（日本設計） 助言をいただく前と後ということですね。

○小篠委員 改善されたことが分かる資料でなければいけないということです。ただやりましたという言葉とか、結論はこうですよということだけではなくて、どういうふうに改善しているのかが分からないと評価はできないと思うのです。

○事業者（日本設計） 助言反映前後で同じような視点からのパースをご提示できるかどうかというところは確認させていただきます。ありがとうございます。

○近藤会長 ビフォー・アンド・アフターが分かれば、より分かりやすくなると思います。

○小篠委員 そう思います。

○近藤会長 ほかに質問されたい委員はおりませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○近藤会長 それでは次に、答申案の審議に入りたいと思いますので、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（石川環境共生係長） 今、画面共有させていただきます。

答申案について、記書き以降を読み上げさせていただきます。

「本事業は、JR札幌駅南口の正面に位置する札幌市中央区北4条西3丁目地区を対象実施区域として、最高高さが200メートル、かつ延床面積が21万平方メートルに達する大規模建築物が建築されるものである。

また、『第2次都市まちづくり計画』において、当該対象事業実施区域の一带は、『官民連携による高度な空間創造を展開することにより都市再生の先導的な具現化を図ることなどを目的とした都市強化先導エリア』に位置付けられている。

事業の実施に当たっては、環境影響評価の重要性を認識するとともに、次に掲げる事項について十分な検討を行い、その結果についても具体的かつわかりやすく環境影響評価書に反映させ、環境影響を極力回避又は低減すること。

1 総論。

（1）累積的影響について。

ア 当該対象事業の実施区域の周辺では、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）事業及び北8西1地区第一種市街地再開発事業が実施中である他、（仮称）札幌駅交流拠点北5西1・西2地区第一種市街地再開発事業が環境影響評価手続中であり、これら他事業と本事業に伴う累積的影響が懸念される。

このため、特に先行事業との累積的影響については、可能な範囲において情報等の収集

に努めたいので、調査、予測及び評価を行うこと。

イ 他の事業者から累積的な影響の調査、予測及び評価に必要な情報の提供依頼があった場合には、可能な限り情報を共有することで、地域全体の環境影響の低減を図ること。

(2) 事業調査について。

ア 事後調査及び環境監視を適切に実施すること。また、その結果を踏まえ、必要に応じて、追加的な環境保全措置を適切に講じること。

イ 上記の追加的な環境保全措置の具体化に当たっては、十分な効果が得られるよう、調査結果や専門家等からの助言を踏まえ、客観的かつ科学的に検討すること。

2 各論。

(1) 生態系への影響について。

事業の実施により、対象事業実施区域周辺にこれまで生息していなかった生物種の非意図的誘引といったことも考えられる。このことから、緑化計画の検討に際しては、単に面積を確保するだけではなく、都市空間における生物相の将来的な変化等も十分考慮したうえで、調査、予測及び評価を行うこと。

(2) 景観への影響について。

ア JR札幌駅（札幌ステラプレイス）上階からの視点場の設定について。

計画建築物の西側に隣接する札幌駅前通（以下『駅前通』という。）は、札幌の玄関口からの目抜き通りとして、そのビスタ（見通し）景観が重要となっている。駅前通は、札幌駅南口の地上からの見通しだけではなく、札幌駅の上階からの見通しも重要であるため、今後の環境影響評価書においてフォトモンタージュを提示する際は、札幌駅の上階等からの視点場も設定すること。また、計画建築物のファサード（正面の外観）に係る視点場の設定に際して、地上部だけでなく札幌駅の上階からの視点についても考慮すること。

イ 他条例に基づく手続との関連及びその検討結果の反映について。

札幌市景観条例に基づく景観プレ・アドバイスの手続での協議過程と本環境影響評価手続との関連が不明瞭であるため、これまでの手続においてなされた助言等をどのように反映しているのか、その反映状況を整備したうえで、今後の環境影響評価書においてわかりやすく示すこと。」。

以上でございます。

○近藤会長 ありがとうございます。

それでは、この答申案について、ご意見がありましたらお願いいたします。

小篠委員、どうぞ。

○小篠委員 前半部分の累積的影響のところですけども、これは、北5西1・西2地区との関係の中で、累積的な影響が相当出ると思うのです。北4西3地区を計画している段階よりも後になって、分かりやすく言えば新幹線の駅ができることによる人流の問題とか、地下道の接続の問題とか、そういった問題が、今回、環境影響評価の北4西3地区のプロセスの中で全く考慮されていないというか、全く情報提供がされていないので、地下の話を

全然吹っ飛ばしていることになるのです。

ところが、地下鉄さっぽろ駅に隣接している北4西3地区の地下というのは、結構タイトだし、そちらからの人流の問題を考えていくときに、適切な空間として整理されているのかというのは相当懸念されるのではないかと私は思っているのです。

その辺のところは大丈夫だよと示されることが、この累積的な影響についてどういうふうに対応するのかということにつながると思うので、その辺を含めて回答していただきたいと思っております。

○近藤会長 事業者の方はよろしいですか。

地下の部分には触れられていなかったもので、地下の人流と空間との累積的影響について書いてほしいということです。

○小篠委員 この後、人の流れが全く変わりますから、そういうことが環境影響評価のこの段階では委員の方々も全く予測がついていないというか、そんなことはこの準備書から見えないわけですから、それに対応しなければいけないのではないかと思います。ここで、累積的影響についてと総論でばちっと語るのであれば、その内容は、私が今言ったようなことが結構大事になってくるのではないかと思います。

○事業者（日本設計） 日本設計でございます。ご意見をありがとうございます。

今、おっしゃっていただきました累積的影響というところでございますけれども、準備書の中では、こちらの答申案に書いてあるような北8西1地区というところは、もう計画として明らかになっているものについては、前提条件という形で反映させていただいた上で予測、評価をさせていただいているところでございます。

一方で、アセス手続上は、あくまでも本事業のできた時点での予測、評価ということになってございますので、今お話しに挙がりました北5西1・西2地区につきましては、後発の事業ということで、今回の準備書の中では、おっしゃるとおり予測条件としては反映していないところです。

また、累積的影響というところでの人流ということにつきましては、環境影響評価の項目としてないため、なかなか評価がしにくいところと考えておりますが、具体的には交通ということになりますでしょうか。

○小篠委員 評価のポイントで言うと、交通の話になるのではないのでしょうか。

○事業者（日本設計） 交通につきましても、現在、明らかになっている計画から分かる範囲で盛り込んでいるところです。交通に関しましては、後発の5-1・5-2地区の予測の中で、逆に本事業の北4西3地区の影響について考慮されながら検討していただくことになるのかなと考えているところでございます。あくまでも北4西3地区のできたタイミングでの予測、評価というところでご理解いただければと思います。

○小篠委員 でも、北4西3地区の設計をするときに、当然、北5西1・西2地区からの接続という話は盛り込んで設計するのでしょうか。できてしまった後に北5西1・西2地区に影響が出てしまうから北4西3地区をまた改造するというわけにはいかないのではない

ですか。

○事業者（日本設計） 都市計画上の交差点需要率などの交通の協議については恐らく両方反映されているところがございますけれども、アセス手続としては交通の予測項目自体はないものですから、交通に関連する内容として、大気質と騒音、振動を北4西3地区の準備書の中では予測させていただいているところがございますが、その断面交通量については、あくまでも北4西3地区ができたタイミングでさせていただいているところがございます。

○札幌市（高橋札幌駅交流拠点推進担当部長） 札幌市の高橋です。お世話になります。

日本設計の今村さんから説明があったとおり、環境影響評価の中で説明できる時点の問題はあるのだと思うのですが、一方で、北4西3地区に関して言いますと、先週の金曜日の都市計画審議会の中で都市計画案として事前説明を行ったところがございます。まさに、その中での議論としまして、小篠委員がご指摘のように、周辺の開発も含めた人流という部分の評価については、質問も受けましたし、我々としても説明をしたところです。その中で、都市計画のほうの議論ではありますけれども、北5西1・西2地区の開発による人の量、さらに、卸センター、北8西1等々の開発、それから、新幹線等々による人の量をオンした上で、そして、北4西3で新たにつくる地下通路の3本をさらに整備した上で人の流れがどうなるのか、そのときにサービス水準がどうなるのかということ、質問を受けておりますし、説明もさせていただいたところがございます。

それは、環境影響評価で言う累積的という意味もありますし、都市計画で言うまちづくり全体としてどうなのだという意味の議論、説明はそちらのほうでさせていただいている状況でございます。

施設計画において、そういう部分を加味しているのか、いないのかということに関しては、環境影響評価のほうでは書き切れないところではありますが、都市計画のほうではそのようなところを加味して設計を進めております。

○小篠委員 今、高橋部長が言われたようなことを、累積的评价に対して対応していますというところの評価書で、内容を細かく書けという話ではなくて、それは完全に環境影響評価書の立てつけの範囲外の話になってしまいますので、私もそこまでは求めないのですが、特に今回の場合は、これが単発の再開発だったらこれで何の問題もないと思うのですが、立て続けに隣接街区を再開発していくという話になって、それがずっと続いていくものですから、今、まさに高橋部長が言われたような話を書き込んでいただくということではいかがでしょうか。

そのレベルで結構だと思うのです。やるのは、都市計画の中でやる、あるいはまちづくりの中でやるということで私たちの責任から外れるのですが、今回の場合はそういう懸念を特に持つので、それに対して対応していきますという表明をしていただければよろしいと思います。

○事業者（日本設計） ありがとうございます。

そのような形で、次の評価書の中では、あくまでも環境影響評価の対象外のところになりますけれども、参考資料という形で、巻末のところ、今のお話にありました内容を検討させていただきながら記載していく方向で協議をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○小篠委員 よろしくお願ひします。

○近藤会長 答申の表現の中で、「このため、特に先行事業との累積的影響については、可能な範囲において情報等の収集に努めたいと、調査、予測及び評価を行うこと。」、これについての修正はどうですか。

○小篠委員 文章はいいのです。この内容、結果がどういうふうに評価書で書かれるかというところを気にしているということです。

○近藤会長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 それでは、小篠委員が心配されていることは次のところで書き入れるということで、答申の表現自体はこれでいいということだったと思っております。

答申案の表現自体は、これで決定させていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○近藤会長 そうしましたら、この答申案については、私に一任させていただきたいと思っております。

よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○近藤会長 ありがとうございます。

それでは、今後の答申案の取扱いについて、事務局からご提案をお願いいたします。

○事務局(濱田環境共生担当課長) 答申案について、このとおり進めさせていただきます。最終確認のメールを皆様に送らせていただいて、それで確定とさせていただきます。

ありがとうございます。

○近藤会長 それでは、先ほど事務局から説明がありましたとおり、表現としてはこのまま答申させていただきたいと思っておりますが、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○近藤会長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、(仮称)札幌駅南口北4西3地区第一種市街地再開発事業環境影響評価準備書についての審議は終了といたします。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

3. 閉 会

○事務局(濱田環境共生担当課長) 近藤会長、どうもありがとうございました。また、

委員の皆様、熱心なご審議をありがとうございました。

審議会の今後のスケジュールにつきましては、年内は今のところ開催予定はございません。年明けからは、北5西1・西2地区の準備書の審議が予定されております。今後、日程調整をさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

審議については以上ですけれども、本日、開催当初、こちらの不手際で進行が遅れましたことをお詫び申し上げます。次回はしっかりと準備していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

本日の審議会は、これで閉会といたします。

どうもありがとうございました。

以 上